中外新聞

外篇

二十

上野戰爭風說入

定價一冊

西垣文庫
文庫10
7328
20

特 文庫10
7328
20

京都帝国大学図書

中外新聞外篇巻之二十　慶應四年五月

○横濱布告翻訳

新潟開港未定の趣を我ミニストルより申越したる書付相添此段英国女王殿下の臣民等へ普く布告そうらうのあり

千八百六十八年第六月廿五日　我五月六日

英國女王殿下のコンシュル　ラチラン・イレッ左ル

於神奈川

書状を以申進い然ハ此度意太利、普魯士の両全權より條約

西垣文庫

通り来十五日我五月六日以後ハ仮令危難の地ありとも勝手次第新潟於て貿易可致旨其国商人等へ相徇ハ拙両國コンシュル迄ハ越ハ趣ニハ就てハ我国商人等も定て同拙の布告有之ハ俗と可存ハハ共去第三月廿八日ニ我三月五日新潟ハ當時松門政府と會津方との戦地ニ相成居ハニ付相越ハ俗不相成旨徇置ハ通り吃度相守心得違無之拙早く徇達可致ハハ以上

千八百六十八年第六月廿五日

於横濱　ハルリーパークス

○官兵東叡山屯集の彰義隊を攻ハ事

五月十四日夕方東叡山ニ屯集致し居ハ彰義隊より明十五日官軍襲来の風聞有之ハ乃老人婦女子立退ハ拙近辺町へ太鼓を打ち觸廻りハニ付人々騒立荷物等持運び大混雑

翌十五日朝五時過官軍分隊にて諸方より押寄来り湯島天神山并不忍の池を隔てて榊原の邸へ大砲相備松源并厂鍋屋共ニ料理の楼上へも大砲引上げ山下辺戦ひ相始りハと直ニ発砲、山内彰義隊より山王山より大小砲打降し遂ニ大戦争と相成双方より打出しハ破裂丸にて呼く一時ニ燃上り山下の巷こニ於て小合戦有之ハ始め彰義隊の方大ニ勝利の拙子ニ相見へハ処八時頃官軍の大兵黒門前ニ寄来り

山内貫義隊の一手裏切の由にて諸方の戦ひ一際劇敷時に
又會と相記しに旗押立いて裏手より援兵来りに拙子の処
右に偽兵にて忽ち発砲、其内、山門中堂諸坊より煙焔盛に立
昇り遂に山内山外の彰義隊皆崩立ちいて口々の官兵一度
に攻入山王山に働居に彰義隊を狭撃鏖殺いしに由七時
頃に至り全く戦ひ終る、宮家のは退去に其前日なりし共い
ひ又當日午前なりしも云は退先を発輝と不相分尤敗兵を
諸方へ分散一手を東橋へかゝりに処固めの紀兵相支いて
戦争有さいへども遂に切抜落行に由○其後山下辺に官軍
の邏兵駁敷帯刀の者を見掛けいへに有無の掛合なし切捨

ないゝ根津谷中辺落武者の穿鑿尤厳重なり十六日十七
日の両日山内に貯へ有之米及び諸坊に勿論宮様のは手道
具并金銀は紋散らしの佛具迄下人へ投与或は踏壊し且又
近日山内に残る所の建家を焼拂ふしの風聞なり諸説未定
本文彰義隊と云は徳川家并諸藩の脱走人等屯集しなる
ものにして決て徳川家の正兵にあらず其頭に小田井蔵
太、池田大隅守、菅沼三五郎、春日鉄太郎と称する者の由此
騒動の當日徳川家執政より解兵の使として服部筑前守
行向ひられども遂に服せざりしなる風聞なり実に遺憾
と云べし

台徳公廟前よりおいて渋紙を敷其上にて切腹したる者一
人なり既に其首を取去るる故誰なる歟知まじ
會の援兵と称して裏手より入るなる全く部説なりと云
裏切も亦詳なるべし此度兵火焼失の場所い公私雑報第十
五号に図なり詳なり就て見るべし
本文貫義隊い多分諸藩の脱走人にて彰義隊中の一分
隊なり

○北地探索書写

伊達陸奥守上杉弾正大弼南部美濃守丹羽左京大夫松平大
学頭阿部美作守相馬因幡守秋田万之助水野直次郎板倉甲
斐守藤井伊豆守岩城左京大夫田村右京大夫生駒大蔵其外
三藩都合十七頭閏四月十八日會盟會津を援けい事に一致
いたし只今迄官軍方へ差出置い人数一旦引揚い事
但右諸侯近日白石城に於て合兵の上大挙進軍相成い由
閏四月十九日参謀衆の由世良某勝見某福島にて討取い
趣此伐極密に相成居い得共相違無之にて相関申い
同月廿日白川城の戦争脱走方勝利にて醜酬様奥州本宮辺
より装束を戎服に改られ白川へ為趣い処途中危き場合
屢有之漸にて福島城へ入暫時右の所に居い後川舟
にて仙臺養賢堂へ移相成いて

九条様より当時養賢堂より逗留仙臺侯より叮嚀より取扱有之尤薩長の人数も退散仙臺家にて驚衛の由より相聞ヤ
い同月廿一日野村某福島にて討い由其外四人程討い
由よいへ共聚と相分り不ヤい
澤三位様羽及へい出張の処多分養賢堂へい引返し可相成
趣薩州大山某羽州にて討といよし風聞有之い
官軍先頃白川城を攻落し薩兵相守居い処閏四月廿日會兵
より取返されいよし
九条醍醐のい両郷を仙臺城へ奉入置い積尤正邪分明より相
成い迄仙會両藩へい倚頼成度との風聞

閏四月廿四日戦争會兵敗走同廿五日仙會脱兵大挙いよし
官軍薩長土大垣忍笠間舘林勢と大戦争官軍敗北太田原へ
引揚け損傷夥敷よし
栗橋宿通行の節手負死人舟三艘より積川上より下りい由同
宿役人の噂より古河宿より大垣怪我人多分滞留致し居い
仙藩千五百人程閏四月廿七日迄より白川へ繰込し會津より
七大隊の人数差出奥及諸藩悉く出兵進軍の風聞有之い
北地列藩の議論より[illegible]の[illegible]を討い旨を
朝廷へ申立益勤王にて自ら官軍と称しい由の事
右大事件変革より付[illegible]の[illegible]取調として仙臺上杉両家

の重臣速ヨ上京いたしは由此上如何可二相成哉

閏四月廿七日白川白坂口ヨリ官軍と會兵と戦争有之はへ

ども勝敗未だ相分らざはい

同廿九日四時頃今市より會津へ越はい途中国境新道と云

所ヨ於て官軍方二千余人と脱走會藩の人数と大戦争有之

はい処官軍方敗走のよし

普魯士人二名會津へ来り三兵傳習器械製造且金銀山を開

きはい付若松城下盛ヨ相成はい由小佐越辺通用金銀多分會

津出来を相用ひはい右普魯士人ハ本國脱走いたしはい者の

由相唱はへ共実ハ其国内命ヨ依てあるると云